

中世の古文書が解説されてある。我國村落發達史の材料と見られる。又支那江南の民家と散村の報告とか、飛驒の民家など斬らしい材料がのつてゐる。定價千圓といふのはやゝ高いけれども、菊版八百頁圖版二百をこえる、民家研究では最も尨大な一卷であらう。(非上)

## 雜報

### ○支那の放送事業

支那では大正十一年に米國會社支那放送協會が生れ上海で着手したが三ヶ月で閉鎖したのをはじめとし、次に米國のラヂオ販賣會社が放送局をやつたがこれも六ヶ月で閉鎖した、ついでケロッグ商會が放送を始めた昭和二年になると支那人の手で新放送局が出来、市況、カーレント・トビックス、支那音樂等放送され、それより各地に外人の放送局が出現しまつ天津廣播電臺に於て長波放送が開始し北平に二十ワットの北平電臺が出来、昭和三年に杭州、ついで同じく南京に於て中央廣播電臺が出来て政府の命令や主要ニュースを放送した、現在南京東門外の江岸にあつて七十五キロワット支那最大の放送局である。それから雲南の昆明、湖北の漢口、廣西の南寧、四川の重慶、福建の福州、廣東の廣州、江西の南昌、山東の濟南等いづれも電臺を經營し、江浙戦争や國民革命の動亂機に盛んに軍閥の利用する所となり、利に敏き支那人は之を商業宣傳に用ひ次で上海事件といふ割

期的事件で飛行機とラヂオは支那政府注目のもととなつた。爾來この方面の進歩著しく現在外、支人官民放送局は八十八局の多きに達し上海に三十七局、江蘇省十四、河北省十、浙江省九、山東四、廣東二、安徽二、四川二、江西、雲南、湖北、湖南、河南、陝西、山西、廣西各省は各一局全放送電力十萬四千六百七十三ワットに達した。

政治的中心の漢口、杭州、重慶、南寧、廣東、福州、南昌、濟南、北平、鎮江、太原等は中央政府又は省政府の經營で主として政府命令訓示の傳達に用ひられ、寧波、天津、青島、無錫、嘉興、蘇州等商業都市では民間經營で宣傳用に使用される。

昭和七年民營放送局暫行取締規則が出来てはじめて取締が出来てはゐるが、大體に於て統一は完全に出来てゐないものと見るべきであらう。

### ○蘇聯邦貿易品の變化

一昔以前ロシアの輸出物といへば一言にして原料品輸出國であつた。木材・毛皮・小麥・石油等歐洲に進出して穀物倉といふ名稱さへあつた。しかし其後に於ける社會主義的建設の異常なる躍進と、ロシアの工業化といふことが、第一次五ヶ年計劃第二次五ヶ年計劃のもとに着々として効を奏し、其結果一九三六年度には蘇聯邦の工業製品の輸出は全輸出の八四%に達し、一方農業原料品の輸出は總に一五%強にすぎぬといふ統計を示めすやうにかはつた。このことはロシアの經濟地理を教授するに當つて、

黒土帶、森林帶、凍土帶、ステップといふ分類で其生産品を簡單に教えるだけでは實際でないといふことを我等にしめす。そこでどうしても工業化した中心城市を新しく加へて教へねばならない。

今一九三六年度のロシヤの重要輸出品目をみると木材及同製品・毛皮・石油・石油製品、亞麻・鑽石・鐵・生産用鐵製品・砂糖・礦物性肥料・化學肥料・油粕・機材・化學製品及藥品等であつてこの外にセメント・アスベスト・原料皮革・大豆加工品等がある。勿論大森林國であり大礦産國である自然の産出が其根本に存することは見逃し得ない品目ではあるが、同時に工業化された製品の輸出するやうになつたことは帝政時代と全くちがつてゐるとはなはだぬ。

同時に國內勤勞大衆の需要増大があつたために一九三六年には食料及工業部門の消費物、例へば牛肉・油粕・木綿織物などの輸出は激減した。さうして工業品としては木材製品が輸出の二九%第一位に上り、第二に重工業品が二八%五、輕工業品が一六%、食料品工業一一%であつた。之を一九三五年に比して或種の機械殊に旋盤輸出は増加した。猶又、イラン・トルコ・西部支那・アフガン・蒙古島・梁海・和蘭・丁抹・ラトヴィア・エストニア其他へ農業機械、トラクター、自動車の輸出が顯著なる増加をしめし、其見本は英國へまで送られてゐる。冶金加工品、機械製品も亦輸出され以上のもので四千六百三十萬留に上つた。全輸出の四%にすぎないけれども

この重工業化の成功と、其近隣に無人の曠野國が廣く自然トラクターや機械を必要とし購入する傾向に導かれてゐることは輕々に看過は出来ない。

かくて蘇聯邦の輸入品も變化した。何といつても主要必要物資は國內生産で確保してゐるといふ強味がある、冶金技術の發達で國産金屬であらゆるものがまかなへるし殆ど機械類は國內で出来る。勿論技術的再建のために外國の機械や器具の輸入をしてゐるけれども過去には重工業用のものを専ら輸入し、現在は輕工業用のものを主として輸入にとめてゐる有様である。さうして有色金屬・鐵・生産用加工品・彈性ゴム・羊毛・生畜・毛皮・皮革原料・茶・化學製品・藥品・棉花・魚類・皮革・米・レモン・蜜柑・乾果・毛織物・絹織物などの輸入を見るのであるが、其九〇%は生産用製品で消費用品は一〇%にすぎない。

いづれにしてもロシヤの輸出入品は昔以前の原料品でなくて、同じ原料品でも加工したものが出るやうになつたと同時に、機械製作・化學・冶金等の學問と實際との進歩したことは著しい現象といはなくてはならぬ。換言すれば工業化せんとしつゝあるロシヤを見直さなくてはならぬと同時に、ある國では其指導の如何によつて工業化が確實に出現しうるものであることを教えられると思ふ。聯邦の政治の善悪は別問題として、こゝではかうした貿易品の變化からみて、ロシヤの工業化といふことを考察せんとする人々の注意を喚起した

## ○圖佳線開通の輸出經路

間島の圖們から佳木斯(チヤムス)へ鐵道が開通したが、この沿線は東部滿洲の穀倉であつて牡丹江の流域の肥沃地をしめ勃利・三姓・佳木斯・湖南管等の農業中心都市があり、牡丹江・林口・勃利等の新興都市で邦人の投下資本は莫大であるが、過去には東部シベリア鐵道によつて、綏芬河驛連絡の上、浦鹽に輸出されたこの地方の農産物は年々百萬噸を越えたものである。而してこの大部分は牡丹江の流域から出たもの及び寧古塔(寧安)、穆陵二縣、間島の汪清と延吉の二縣の農産であつてその一部分として浦鹽にゆき、他の部分には圖們江へ出たのであるが、從來丁抹商ワツサルド・英商カバルキン・佛商ドレーフス等外人の手で買占められたものである。邦商はたゞ林産に目をつけて、牡丹江と梅林で材木と仕入れてハルビンに送かつてゐたものである。しかしいよゝ圖佳線が開通したので、これらの貨物は北鮮の羅津・清津方面に出るやうになるであらう。昭和八年以來烏蘇里鐵道と濱綏線の連絡は斷たれてゐるのであるから、今迄の浦鹽行きの貨物は南下しなくてはならぬやうになつてゐる外に、一方梅林から密山までの鐵道も亦完成したのであるから、密山方面からの農産物も亦本線を培養するものと考へられる。

從來は三姓や方正や佳木斯等松花江本流の河港は、その農産物を河舟でハルビンに送つたものであるけれども、さう

してその量は哈市へ到着する穀物の四割乃至五割に達したのであるが、其一部分は勿論ハルビンで消費されるが、残りには拉濱線や京濱線で輸出されてゐたのであるから、これらのものが直接に新線に出廻るものとして牡丹江流域から二十萬噸松花江流域から同じく二十萬噸少くとも合計四十萬噸は、圖佳線と其支線を通じて南下する見込となる。馬賊の退散と、鐵道の伸張と共に伴ひ、東部滿洲、古代の渤海國王城の肥沃地の農産は、將來に於て北鮮の三大輸川港を賑はずであらうことを信じる。

## ○山東省の農産物

昭和十一年度の山東での葉烟草は八千三百萬封度の豫想であつたが主として東部、中部、西部の三方面から出て、辛店、青州、濰縣、蝦蟆屯等をその市場とし就中辛店は葉烟草の中心市場で三百五十萬貫からの取引がある。日本側の山東・米星・南信の三社、英米トラスト、上海南洋公司・奉天中央公司等の主として活動する、ついで青州市場では六七十萬貫、濰縣は三十萬貫、蝦蟆屯は十萬貫内外を買付けるのであるが蝦蟆屯は小さいけれども邦商米星烟草の乾燥工場があつて、同社の買付根據地である。乾柿は青州の唯一の集散地で雲門山の背後地域から出る、十一月と十二月に出盛りで一箱十貫目、七百乃至九百個人で五元位の相場である、串柿も同時に出る。日本人が正月用に買ひつける。

落花生は濟南が中心市場で穀付で十九萬噸、剝實にして十一萬三千噸。一袋百五十斤入で百萬袋は出る、黄河涯・平原・

禹城・利津・齊東・河北・泰安・大汶口・曲阜・鄒縣等主として黄河の平原が主要産地で黄河の舟運によつて濰口に集まるものや津浦線や濟南線を利用することになつてゐる。

羊毛は百五十萬頭の羊で生産二百萬斤であるが、濟南・周村・青州・博山等の都會に集まる寒羊毛・第二寒羊毛・大片毛・縮毛・春毛・秋毛等の區別がある。天津と上海へむけて輸出される。

棉花も亦濟南を中心とする地と張店を中心とする地域に産し今の黄河沿岸は前者に、舊い黄河流域即ち山東の西部と南部諸縣の産は張店に集中する、津浦線、陸路馬車、水路又は一輪車でやつてくる、最大百五十萬擔を産し中國銀行や交通銀行が對棉花金融に乗出して濟南では中國銀行が倉庫を營んで、棉花を抵當にして買付資金を供給したり、或は直接農民に一畝當二元を前貸するやうになつたから棉花の栽培は長足に進歩する見込である。

### ○日本と濰洲の通商品目

濰洲は日本の輸出市場として米國(五億三千五百萬圓)關東州(三億圓)英領印度(二億七千六百萬圓)支那(一億五千萬圓)爾領印度(一億四千三百萬圓)滿洲(一億二千六百萬圓)英國(一億一千九百萬圓)につき第八位をしめ七千五百萬圓内外を輸出し、濰洲よりの輸入をみると米國(八億一千萬圓)英領印度(三億〇五百萬圓)についで第三位(二億三千五百萬圓)(括弧内の数字は一九三五年度の概數)で千九百三十三年度以來連年一億五千萬圓内外の入

超をつゞけてゐるが、それは主として羊毛と小麦の代價であつた。同時に對濰輸出貿易では綿織物と人絹物で全額の五三%をしめ絹織物・生糸・陶磁器・玩具・硝子及同製品・硫黃等である。輸入割當に關する取極めが出來たのは、主としてラシヤの機業保護といふことであるのであるが、第一に人絹布は近年非常に進展して、濰洲輸入總額の八七%に達した。需要額も頂點に近付き居る様に考へらるゝから、今般取極により數量に制をうけたけれども犠牲は多大でない。綿布では近年一時に進展したのであるが中にも袋製造生地綿布は全額獨占であるけれど生地綿布五七%晒綿布二〇%其他綿布三一%を占むるに過ぎなかつたものに對して今回割當制限が出來たので進展阻止となつた。絹布は嘗ては本邦對濰輸出の最重要品であつて昭和三年度には總輸出四千三百萬圓のうち其六六%約二千八百萬圓を占めた位であるが、人絹布の進出で一九三五年度僅に六百六十九萬圓に激減した。しかるに生糸の方は靴下の材料であつて、年額四百萬圓の輸出は今後とも維持が可能である。英本國には生糸がないからである、陶磁器は一九三五年日本から三三%、英國品は六四%五を輸入した。將來日本品が進展すると英國當業者が何とかいひ出すから細心の注意がある。玩具も日本品は六四%六で七萬九千磅に達した、硝子の方は濰洲で相當なものが出來るけれども硝子製品(魔法瓶・コップ・カットグラス・眼鏡)などは日本品發展の見込が多い。硫黃に至つては肥料製造に使用され

るもので濠洲に産出がないから百萬圓以上の輸出が繼續される見込である、つぎに魚類雜貨も見込が多い。

濠洲から日本への輸入では羊毛工業の發達に伴ふ必然の現象で二億圓からの年々の巨額に達する。これは過去にモスリンド製産物として輸入したのに始まり、ついでセル地用にうつり、やがて洋服地にかはつたからメリノ以外の羊毛、クロスブレッドを使用する技術が進歩した。そこで年額八、九十萬依の羊毛輸入のうち濠洲特産のメリノは十五、六萬俵を輸入すればよい、しかし本邦のさしあだつての羊毛給源地は濠洲新西蘭・阿弗利加・南米の順序である。濠洲の羊毛産額は十億封度殆どすべてが輸出に向けられ、英國は三割五分、日本は二割四分、獨逸は一割七分見當をうけてゐる、日本は第二位の消費國である。

小麦は日本では國內需要九百萬石、近頃自給自足の傾向であるけれども、海外輸出小麦粉製造のため依然外國産小麦輸入の必要があつて濠洲産小麦百萬磅位を輸入してゐる。これも羊毛と同じく英國について日本は濠洲第二位の顧客であつたが、これは滿洲國などをつつたり其他の國から輸入して貿易のバランスをはかることが出来る。そこで結局は羊毛はどうしても、しばらくの間濠洲産に依存しなくてはならない現状である。日本と濠洲とは隣邦であるから永久に都合のよい商業關係を確立したいものである。

○英領ナイジェリア 面積三十七萬三千平方哩、人口約二千萬人内歐人シリア人六千人を算しイバダンは三十八萬

八千人(土人村落の集合)ラゴスは十二萬八千でこゝが外國貿易の中心地である。

産物は椰子核・椰子油を主産とし核は二十五萬噸乃至三十萬噸、油は十五萬噸でカラバアルを中心とし、コ、アも亦七、八萬噸、落花生二十萬噸、棉花一萬噸等である、其他林産物にマホガニー・ゴム・鐵産物もある、港灣の主なものラゴス Lagos Burnth, Port Harcourt, Calabar である、ナイジェリア諸港の一ケ年の出入船舶約千隻貨物百萬噸に達する、このうち六十萬噸はラゴスである、鐵道はラゴスから内地二千二百哩延長し、自動車路は四千哩に達し、北部カノ(Kano)は交通の中樞である。航空路も一九三六年、春、埃及スウダンのカルツウムで帝國航空社南阿線に聯絡するものが一週一回開かれたが、その年の秋十月ラゴスに飛行場が完成した、アフリカの開發は飛行機と自動車で近年素張らしくはつてきたことは刮目すべきである。

日本品も輸入されるが主として英、佛本國に根據を有する歐洲商社の手をへてゐるもので、邦品の注文は本國で行ひ直接注文を發しないから、明瞭に統計にのらないが、同方向小賣商人は信用がらすいから直接に注文に應じるとハタキ賣とするといふことである。近時邦商の西阿各地に於ける小賣商との小口取引開始もあるが、これは市場を攪亂して困るといふことである。日本品に對し織物・セメント・シャツ等數品目は割當及附加税がついてゐるので進展しがたいけれども、差別待遇のない雜貨類はまだ進出の餘地がある。